

ONMYAKU VOL.60

東京文化会館 公演情報

10-12 | 2015
AUTUMN



interview & essay

小林研一郎	2-3
小曾根 真	4-5
ゴータイエ・カブソン & 児玉 桃	6
アンドレアス・オッテンザマー	7

Music Festival TOKYO	8
東京文化会館主催公演	9-12

column

プロセニアムのスター達	13
公演情報 10月~12月	14-19
音楽資料室より	20
都響ニュース vol.37	21
会館からのお知らせ	22

東京文化会館
Tokyo Bunka Kaikan



interview 01 Kenichiro Kobayashi

《響の森》vol.37
「ニューイヤーコンサート2016」

小林 研一郎

(東京文化会館音楽監督)

大胆なアプローチと静寂の美

進化するマエストロと

新年をひた走るエネルギーを分かち合う

取材・文／友部衆樹(音楽ライター)
写真／青柳 聡

ニューイヤーコンサートで聴く“第10番”

2016年1月3日のニューイヤーコンサートには、2015年に続いて小林研一郎(東京文化会館音楽監督)を指揮台に迎える。メインはブラームスの交響曲第1番。ブラームスに寄せる思いを伺った。

「今年も、大晦日にベートーヴェンの9つの交響曲を演奏します。体力的には大変なのですが、作品の素晴らしさが支えてくれて、独特な感性が光る音がオーケストラから出てくる。そういう日なのです。」

そして年明けの1月3日、ニューイヤーコンサートでブラームスの交響曲第1番を採り上げます。ご存じの通りブラームスの1番は、ベートーヴェンの9つの交響曲の精神を受け継ぐ作品として“第10番”と呼ばれた曲です。文字通り、ベートーヴェンの9曲に続けて“第10番”を演奏する機会は、自分の指揮者人生でも2度とないでしょうし、とても光栄ですね。その意味深いブラームスの1番に新しい風を吹き込むことができれば、と思っています」

ブラームスへの思い

マエストロは、ブラームスの交響曲に対して特別な思いがあるという。

「1980年代の後半、ベートーヴェンの交響曲全曲録音に挑戦

したことがあります。しかし、ベートーヴェンの交響曲は当時の自分が想像した以上に遥かな高峰で、神聖なヴェールに包まれ、何度トライしてもはね返されてしまいました。これが痛手となり、ベートーヴェンには触れたくない、という思いが数年間続きました。『運命』『田園』だけはかろうじて指揮しましたが、他の曲はスコアを開くことさえ怖い。

その時期に取り組んだのがブラームスの1番でした。ブラームスは、交響曲と呼ぶからにはベートーヴェンに匹敵する作品を書かなければならない、という非常なプレッシャーの中で作曲を続け、交響曲第1番は構想から完成までに20年以上を費やしたと言われます。そのブラームスのためらいや逡巡こそが素晴らしいと思うのです。

ブラームスの交響曲第1番に取り組み、2番、3番、4番を学び、それを還元することで、改めてベートーヴェンの交響曲の神聖な扉を開く勇気を与えられました。自分にとって、ベートーヴェンに到達するために、ブラームスが必要だったのです。ブラームスと同じ重圧を感じながら、と申し上げると僭越ですが、特に交響曲第1番へ共感できたことは、その後の指揮者人生を拓いた大きなものでした」

ブラームスへのアプローチ

ブラームスの交響曲を“本当に好きな作品”と語りながらも、

大胆なアプローチを行うのもマエストロならではの。

「ブラームスの交響曲第1番に関して、作曲家が楽譜に書いていないことを実はいろいろとやっています。フィナーレのクライマックスではホルンを加えます。あまりやり過ぎるとお客様が違和感を覚えてしまいますので、音を書き加えるのは最小限にしていますが、他にもピアノをフォルテに変更したり、クレッシェンドやデクレッシェンドを書き加えたり。表現の幅を広げて、オーケストラから揺れ動くような響きを引き出したい。

今は原典尊重の時代ですから、このようなやり方はいかかなものか、という意見があることは承知しています。しかし、ブラームスが生きた時代よりもホールが大きくなっていますし、何より、現代の私たちの耳はスピーカーを通した大音量に慣れてしまっている。そんな中でインパクトのある音楽をやるためには、工夫が必要と考えています」

前回のニューイヤーコンサートでは、『新世界より』フィナーレにチューバを加えて会場に衝撃を与えた。2016年も意外なサプライズがあるかもしれない。

静寂の美

演奏に“熱さ”を求める小林研一郎。“炎のマエストロ”として聴衆に愛される所以だが、近年、その芸術には変化も見られる。2013年9月、東京都交響楽団を指揮した『フィンガルの洞窟』序曲では、曲の中ほどで両手を下ろし、マエストロは立ったままの状態に。それでいてオーケストラは息の長いクレッシェンドを行い、大きなエネルギーを発してゆく。指揮者は一切動かず、しかしオーケストラが自在に動くという不思議な境地。

「あの時は即興でした。指揮を40年以上もやっておりますと、ああ、今、自分は必要ない、と思う瞬間があるのです。私の存在は指揮台の上から消えて、心は演奏する側に回っている。オーケストラの皆さんが静まり返って、お互いに空気に溶け込む方法を探して、気持ちに火が灯る。炎になるための真髄こそ、静寂の美なのですね」

“炎”は健在のままに、“静寂の美”も語るマエストロ。アーティストの進化を、私たちが聴き逃してはならないだろう。

金子三勇士

チャイコフスキーのピアノ協奏曲第1番で共演するのは、俊英ピアニスト、金子三勇士。彼は日本人の父とハンガリー人の母のもとに生まれ、6歳で単身ハンガリーへ渡り、祖父母の家からバルトーク音楽小学校に通った。

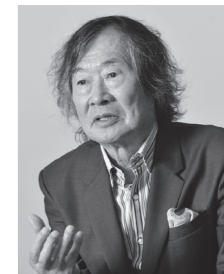
「三勇士君とは、彼がハンガリーに住み始めたころ、ある方に紹介いただいて現地でお会いしました。それからは毎年のように、レッスンというほどではありませんが、何かとアドバイスをしてきました。少年時代の彼はいつも自信満々にピアノを弾いていて、私は“もっとこうの方がいいのでは”と言う修正役でした。そんな中で、彼は2008年のバルトーク国際コンクールで優勝。その後の活躍は皆さまご存じの通りです。

ニューイヤーコンサートで演奏するチャイコフスキーは、三勇士君と2013年2月にロンドン・フィルと録音、その後はブダペストでも共演しています。

彼は本当に優しく、凛として温かく、周りに気を配ることができる人間です。一方でピアノに向かうと、悪魔的な演奏をするかと思うと、非常に優美で夢みるような味わいを披露することもある。感性に溢れた、不思議な印象を残すピアニストです。コンチェルトに関しては、指揮者との間合いが絶妙。彼との共演は、ソリストとの関係でせめぎ合うところ、ファミリー的に気持ちを重ねられるところと両方ありますので、とても楽しみです」

お客様へ

「東京文化会館は、フォルテシモをバランスよく受け止め、ピュアなピアニシモも実現できるホール。そのホールで、都響の皆さんと三勇士君の協力を得て、何か新鮮な驚きを実現できたら嬉しいですね。もちろんニューイヤーだからと言って軽い気持ちで演奏するわけではありません。音楽家はステージに立てばいつも真剣勝負ですから、豊かな響きの中に身を置いて、新しい1年をひた走るためのエネルギーを会場の皆さまと分かち合いたい。そう思っています」



information!

《響の森》vol.37「ニューイヤーコンサート2016」

平成28年1月3日(日) 15:00 大ホール

出演 指揮:小林研一郎
ピアノ:金子三勇士
管弦楽:東京都交響楽団
曲目 チャイコフスキー:ピアノ協奏曲第1番 変ロ短調 op.23
ブラームス:交響曲第1番 八短調 op.68

料金 S席6,200円 A席4,100円 B席2,100円 ※各種割引あり



小林研一郎 © 渡田 聡
金子三勇士 © K.Miura



interview 02 Makoto Ozono

Music Program TOKYO メインコンサート
小曾根 真×ブランフォード・マルサリス
“Jazz meets Classic” with 東京都交響楽団

小曾根 真 (ピアノ)

若き日の創作の原点となった

プロコフィエフのピアノ協奏曲第3番。

今年もエクサイティングな挑戦が始まる。

取材・文 / 片桐卓也(音楽ライター)
写真 / 青柳 聡

毎年、このコンサートを待っているという方も多だろう。世界的なジャズ奏者が東京都交響楽団とコラボレーションする「Jazz meets Classic」。ホスト役はもちろん小曾根真、そして今年のゲストは世界的なサクソフォン奏者であるブランフォード・マルサリスだ。

小曾根真に今年のプログラムについて聞いた。
「今年は、ジョン・アダムズとプロコフィエフの作品ということで、かなりクラシック寄りのプログラムになりましたね。それをジャズの世界のミュージシャンが演奏する。真正面からジャズミュージシャンがクラシックに挑戦するという、やはり世界的に見ても珍しいコンサートになると思います」

小曾根は後半にプロコフィエフの「ピアノ協奏曲第3番」を演奏する。これはかなり思い入れのある作品だと言う。

「ちょっと長いエピソードとなりますが。僕はオスカー・ピーターソンが大好きで、ピーターソンみたいに弾けることで満足していたのですが、パークリーの先生に「なんでお前はピーターソンの真似ばかりしているんだ。なぜ自分のスタイルで弾かないのか?」と言われた。で、パークリーを卒業した後にアメリカでデビューすることになったけど、スウィングの曲を弾くとオスカー・ピーターソンのようなフレーズしか出てこない。それでその対極はなにか、クラシックだろうかと思い、当時ニューイングランド音楽院でピアノを学んでいた友人に電話を

かけて、「クラシックの曲で何を聴いたら良いだろうか?」と相談したんです。

『プロコはどう?』って言うから、『それ、何?』って聞き返したら、『何じゃなくて、誰』って言う(笑)。で、推薦してくれたのがプロコフィエフの『ピアノ協奏曲第3番』だったという訳です。早速レコードを買って、この曲を聴いてみたら、完全にノックアウトされてしまった。それまでクラシックと言えばモーツァルトとベートーヴェンくらいしか知らず、ラヴェルもまだそんなに聴いていなかった時代、これまでに経験したことのなかったハーモニーの使い方、リズムの使い方など、あらゆる面で斬新な世界があった。そこから得た栄養で作ったのが、デビュー・アルバムである『OZONE』だった。プロコフィエフの3番の協奏曲を聴かなかつたら、あのアルバムは出来ていなかったと思います。

その出発点となった作品を、自分が弾くことになろうとは、微塵も思っていなかった。昨年、札幌交響楽団の演奏会でこの曲を初めて弾きましたが、とても大変だなと思った記憶があります。半年ぐらい譜読みして、それでもなかなか覚えられない。CDを聴いたら意外に簡単に思えたのだけれど、とんでもない。難しい曲でした。それでも、クラシックの良いところは、同じ曲を弾き込んで行くことが出来る点ですね。シェイクスピアの芝居に取り組む役者がそうであるように、それを重ねれば重ねるほど、解釈も深まって行くし、新しい発見もある。プロコの3番

は死ぬまで弾いて行きたいと思っている曲で、小曾根真を作った曲だと思っています」

このコンサートの前半にはアメリカの現代音楽作曲家であるジョン・アダムズの「サクソフォン協奏曲」をブランフォード・マルサリスが演奏する。この作品は2013年8月に初演された作品なので、本当に出来立ての協奏曲と言うことが出来る。それを早くも日本で聴くことが出来るのだ。

「ブランフォードからは、どうしてこんなに難しい曲を選んでしまったんだろう、とかなり泣きの入ったメールが届いています。でも、彼の能力は本当に素晴らしいから、きっとこの秋には素晴らしいパフォーマンスを見せてくれるはずですよ」

と小曾根。ブランフォードとはパークリー音楽院時代からの知り合いである。

「僕とブランフォードは生い立ちがちょっと似ているところがありました。というのは、当時のパークリーは、サクソフォンな



らコルトレーンとか、ジャズの主流の音楽をやっていないと馬鹿にされるようなところがあったのですが、僕はオスカー・ピーターソン、ブランフォードはR&B(リズム&ブルース)命、みたいなところがあって、同じ世代のミュージシャンたちがコルトレーン、マイルスなどをバリバリ弾いているのに、

僕たちはちょっと太刀打ち出来ないなと思っていました。ただ、その当時はど真ん中ではなかったけれど、ブランフォードはとても幅広い音楽性の持ち主だったので、結局いまはアメリカのジャズ界を引っ張る存在になっている。そして、ブランフォードも僕とはほぼ同時期ぐらいに、クラシックの世界に足を踏み出していたようです。その後、たまたまユニオンした時に、クラシックの話題も出ていたんです。彼が言うには、お前が曲を書け、と。室内管弦楽団とサクソフォンのための作品でも良いからと言うのですが、そんなに簡単に書けるものでもないですよ。ブランフォードはいろんな作曲家のところに出かけて行って、1週間、2週間過ごす中で一緒に作品を作っているようです。サクソフォンの楽曲はまだまだ少ないですからね、クラシックの中では」

そんなことで、今回の「Jazz meets Classic」はいろいろな観点から楽しめるコンサートになると思う。まったく新しい作品であるジョン・アダムズ、そしてやはりクラシックの古典的作品とも言えるように評価されているプロコフィエフのピアノ協奏曲第3番。この2つの大作に挑むふたりのミュージシャンの姿は、新たな音楽の魅力を教えてくれるだろう。今年もきっと素敵なアンコールがありそうだし。

また、そのコンサートに先立つ10月21日には東京文化会館小ホールで「小曾根真ワークショップ『自分で見つける音楽 Vol.3』」が開催される。こちらも毎年話題となるワークショップで、そこでは音楽を仲立ちにしたコミュニケーションについて、新たな発見が出来そうである。ぜひ、こちらもチェックしておいて欲しい。

information!

メインコンサート 小曾根 真×ブランフォード・マルサリス MPT “Jazz meets Classic” with 東京都交響楽団

10月24日(土) 17:00 東京文化会館 大ホール 10月25日(日) 15:00 オリナスホール八王子

出演 ピアノ:小曾根 真
サクソフォン:ブランフォード・マルサリス
指揮:エドウィン・アウトウォーター
管弦楽:東京都交響楽団
曲目 パーンスタイン:「オン・ザ・タウン」より“3つのダンス・エピソード”
ジョン・アダムズ:サクソフォン協奏曲
プロコフィエフ:ピアノ協奏曲第3番 八長調 op.26



料金 S席5,000円 A席4,000円 B席3,000円 学生席1,000円

information!

ミュージック・エデュケーション・プログラム Talk & Lesson MPT 小曾根 真ワークショップ「自分で見つける音楽 Vol.3」

10月21日(水) 19:00 小ホール

料金 参加料1,500円 25歳以下1,000円



© Michael Tammara

© Marco Borggreve

パブロ・カザルス、ムステスラフ・ロストロポーヴィチ、ジャクリース・デュプレ、ヨーヨー・マ……。20世紀の偉大なチェリストを挙げるだけでも名手たちの名前が次々と頭に浮かび、彼らの音楽は21世紀になっても語り継がれている。その歴史は、言うまでもなく現在進行形で流れ続けており、私たちはさまざまな新しい才能に出会えるという特権を有しているだろう。

1981年、アルプス山脈にほど近いフランス南東部のシャンベリという古都に生まれたゴージェ・カプソンも、注目すべきチェリストの一人だ。いや、協奏曲のソリストとして、兄ルーカ・カプソン(ヴァイオリン)やマルタ・アルゲリッチ、ユジャ・ワンらと組んだ室内楽者として、すでに何度も来日コンサートを行っている彼は、すでに「注目すべき」という言葉を付ける必要がないほど知られた存在かもしれない。まるで映画のスクリーンから抜け出してきたような、精悍さと甘さがほどよくミックスされたルックスも多くの人を惹きつけるが(たとえばフランス革命などを描く歴史劇で青年貴族を演じたら、さぞかし……と思うのだが、いかがだろうか)、やはり耳を傾けるべきは雄弁にチェロを歌わせるしなやかな感性だろう。20代の初頭でCDデビューを果たし、常に録音やコンサートで音楽的成長を聴き手に披露してきたカプソン。2016年には35歳を迎えるが、今回の来日公演は巨匠という領域に向かって歩み続ける彼の瞬間を、同じ空間で共有することなのだ。

筆者の個人的な嗜好も含めたおすすめポイントを書かせていただくと、その魅力は「ストレートな語り口」である。音楽家にインタビューをしたり、マスタークラスなどを聴講すると、弦楽器の場合は特に「楽器を歌わせる、語らせる」ということが避けられない命題なのだろうと感じることが多い。カプソンの場合は、歌うことがあまりにも自然であり、コンサートに『チェロは語る』といったタイトルが付いていても納得できるほど、音楽が生きて語り続けるのである。手元には今、2010年に録音されたガブリエル・フォーレのチェロ作品集(2曲のソナタや有名な「シシリエンヌ(シチリアーノ)」「エレジー」などを収録し

essay 01

Music Program TOKYO プラチナ・シリーズ
第3回 ゴージェ・カプソン&児玉桃
～二人のエスプリが奏でるチェロ・ソナタ～

ゴージェ・カプソン & 児玉桃

(チェロ) (ピアノ)

チェロとピアノが雄弁に歌い、語る
デュオ・リサイタル。豊かで多彩な音色が
4つの名曲に新しい光を当てる。

文/オヤマダアツシ(音楽ライター)

た一枚)があるのだが、ここでの彼はまるで楽譜を読み聞かせしてくれるように振る舞い、純粋な眼差しで音楽を紡ぎ出しながら聴き手に語りかけているのだ。

その、音楽に対するセンシティブな感性は、今回のデュオ・パートナーとなる児玉桃にも共通することだろう。長く暮らすパリを拠点として活動している児玉もまた(筆者の個人的な感想ではあるけれど)実に繊細なタッチでさまざまな音色を生み出し、音楽を語るピアニストであるという印象が強い。しかもどのような作曲家・作品であれ、その演奏には高原の湧き水のような純粋さがあり、聴き手の心が自然に音楽と対面できるよう手を引いてくれるような優しささえも感じてしまうのだ。さまざまな編成の室内楽も経験してきた児玉だけに、カプソンのチェロとどう対話し、ひとつの物語を作り上げていくかが今回のコンサートの聴きどころであるかもしれない。単に寄り添うだけのピアノではなく、楽器同士で会話をしながら、チェロから新しい言葉を引き出すようなリーダーシップさえも期待できるし、そうした時間こそがライブ・コンサートならではの楽しみだと言えるだろう。

リサイタルのプログラムは、シューマンおよびブラームスというドイツ・ロマン派の本流と言える作曲家をブックエンドのように配し、20世紀のチェロ作品としては避けて通れないブリテンとドビュッシーのソナタが加わる。豊かな中声の魅力と、情熱を帯びたヴィルトゥオジティが混在するシューマンの「幻想小曲集」。秘めた感情とシニカルな雰囲気イギリス的な硬質さを生み出しているブリテンのチェロ・ソナタ(1961年に完成)。20世紀の新しい時代を見据えながらも19世紀へのノスタルジーを捨てきれないようなドビュッシーのチェロ・ソナタ(1915年に完成されたため、今年が作曲100年となる)。そして、32歳のブラームスが思いの丈を五線譜に書き付けたようなチェロ・ソナタ第1番。4つの作品は個性も異なるため、さながら「ゴージェ・カプソンと児玉桃による《4つの場面》」とも言うべき演奏が聴けるような気がしている。

公演情報 P10 参照 >>>



© Anatol Kotte Mercury Classics DG

ソロ・リサイタルやアンサンブル・ウィーン=ベルリンのコンサート・ツアー等で来日するたび、その見事な演奏はもちろん「王子様がステージに登場した」という声もあがるほどのルックスで聴衆を魅了するクラリネット奏者、アンドレアス・オッテンザマー。わずか22歳でベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の首席奏者に就任し、気の合う仲間たちとアンサンブルを楽しみ、スイスのルツェルン近郊では自らが主催する音楽祭を開催しているという活躍ぶりだ。そうした活動の中で重要な位置を占めるのが「ザ・クラリノッツ」というクラリネット三重奏。共にウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の首席奏者を務める父エルンスト、そして兄ダニエルと組むファミリー・アンサンブルであり、世界最高峰のクラリネット三重奏だと言えるだろう。2016年2月2日、このスーパー・トリオが『プラチナ・シリーズ(第4回)』に登場する。

「僕は12歳のときにクラリネットを吹き始めたのですが、家では曲もうまく吹けないうちから父や兄と一緒に演奏していました。でも僕の担当は曲の中でたったひとつの音だけ。他の2人が演奏する中で僕はそのひとつの音だけをプーと吹いていたのです。それが僕にとって初めての室内楽であり、トリオの原点だと言えるでしょう。楽しかったですよ。演奏が上手になるための練習はもちろん大変でしたけれど、今でも僕が音楽を楽しめているのはそうした経験があったからだと思います。日本でもクラリネットを演奏している学生たちと交流することがありますけれど、そのときも『どんなにシリアスな曲であっても、演奏することを楽しんでください。それは必ず聴衆にも伝わるのですから』とお話しています」

ザ・クラリノッツやアンドレアスのコンサートに接したことがある方であれば、見事な演奏に感服すると同時に、ステージで展開されるちょっとしたユーモアも印象に残っているだろう。厳格な顔をした父エルンストも、そうした演出で客席をわかせてくれるのだから、家庭内には常に笑いが絶えないだろう。

「ケンカもしますよ(笑)。でも音楽家として認め合っている間柄ですので、今では全員に発言権がある平等な立場です。コンサ-

interview 03

Music Program TOKYO プラチナ・シリーズ
第4回 ザ・クラリノッツ
～スーパー・クラリネット・アンサンブル～

アンドレアス・オッテンザマー

(クラリネット)

ウィーンの伝統を受け継ぐ世界最高峰の
家族トリオが登場。楽しいコンサートで
クラリネットの素晴らしさを伝える。

取材・文/オヤマダアツシ(音楽ライター)

トでの演出は、僕のアイデアが多いかもしれません。コンサートはひとつのストーリーですから、シリアスな時間もあればそれを和らげる楽しい時間があった方がいいと思いますし、何より僕たちがお客様とそういう雰囲気共有したいのです。2月のコンサート・プログラムはモーツァルト他のオペラを編曲した作品や、僕たち家族にもつながりがあるハンガリーの作曲家による曲(ダニエルとアンドレアスの母はハンガリーの出身)、ボサノヴァの名曲などバラエティに富んでいますが、クラリネット・アンサンブルの素晴らしさや可能性を知っていただけると信じています」

ウィーンスタイルによるクラリネットを演奏している3人が、音色などにはどういった特徴があるのだろうか。「ウィーンの楽器は内径が広く、その分だけ息もたくさん吹き込まないとイケませんけれど、そこから独特の力強さと柔らかさが同居している音が生まれるのです。どのような音でも常に丸みを失わない音が、モーツァルトをはじめとするウィーン音楽の伝統を支えていると言えるでしょう。ザ・クラリノッツのコンサートでは3人が、バセットホルンも含むいろいろなタイプのクラリネット属を演奏しますが、誰がどの楽器を演奏するかについては臨機応変に考えています。同じ曲でもコンサートによって違った楽器・パートを担当することがありますし、開演30分前にも『今日は僕がこっちの楽器を吹くから』『いや、それは僕が吹きたいんだ』と決まらないことだってあるのですよ(笑)」

そんな楽しい雰囲気のトリオも、2016年には記念すべき活動10周年を迎える。

「トリオとしては初めてドイツ・グラモフォン・レーベルからCDをリリースしますし、1月には僕たちのためにイワン・エレート(Ivan Eröd)という作曲家が書いてくれた協奏曲をウィーン・フィルと共に世界初演します。その後に来日してコンサート・ツアーを行います。僕たちもワクワクしている時期ですから、きっと素晴らしいコンサートになることでしょう。僕と同じベルリン在住の素晴らしいピアニストである菊池洋子さんとの共演も楽しみです」

公演情報 P10 参照 >>>

Music Festival TOKYO

10月2日~11月3日

小曾根真、ブランフォード・マルサリス、秋吉敏子、タンブッコなど、クラシックとジャズが出会い、子供から大人まで楽しめる、東京の秋を彩るフェスティバル

文/山田治生(音楽評論家)

「Music Festival TOKYO」は東京文化会館から発信される秋の音楽フェスティバル。今年のメイン・コンサートは、小曾根真とブランフォード・マルサリスが東京都交響楽団と共演する「Jazz meets Classic」である。

ジャズ・ピアニストとして人気の高い小曾根真は、近年、クラシックの協奏曲にも取り組み、2013年秋にはラフマニノフの「パガニーニの主題による狂詩曲」を、2014年秋にはショスタコーヴィチのピアノ協奏曲第1番を、東京都交響楽団と共演した。今年、プロコフィエフのピアノ協奏曲第3番を披露する。プロコフィエフのモダンなテイストはジャズに通じるものがある。そして天才サクソフォン奏者ブランフォード・マルサリスの登場も楽しみ。ブランフォードがジャズ・トランペッター、ウィントン・マルサリスの兄であることは周知のこと。今回は、今アメリカで最も注目されている作曲家の一人であるジョン・アダムズが2013年に作曲したばかりのサクソフォン協奏曲を吹く。ミニマルとジャズが融合したようなその協奏曲は決して晦渋な現代音楽ではない。ジャズ・サクソの巨匠が新作協奏曲をどう吹くか、興味津々である。指揮はエドウィン・アウトウォーター。彼はこれまでに東京都交響楽団や東京交響楽団とも共演している。アメリカ出身のアウトウォーターが指揮するバーンスタインの「《オン・ザ・タウン》より3つのダンス・エピソード」は聴きものである。

なお、小曾根真は、ミュージック・エデュケーション・プログラムにも参加し、ワークショップもひらく。小曾根は、トークと演奏で、ジャズやクラシックなどのジャンルの境界線を取り外し、自分で音楽を見つけることを伝える。

また、東京文化会館小ホールの「プラチナ・シリーズ」には、パーカッション・グループ「タンブッコ」、ジャズ・ピアニストの秋吉敏子が登場する。1993年に4人のメキシコ人打楽器奏者によって結成されたタンブッコ。グラミー賞

に4度ノミネートされるなど、すでに彼らの活動は国際的に高く評価されている。いわゆる打楽器だけでなく、木片や石ころやテーブルまでをも楽器に変えてしまう、驚きのパフォーマンスが展開される。そんな彼らは、今回、ステイヴ・ライヒの「木片の音楽」のほか、エクトル・インファンソンの「エマトフォニア」、このグループの芸術監督であるリカルド・ギャルドの「カリンバとマリンバのための新作」などを披露する。アメリカでも高く評価される秋吉敏子は現在85歳。そんな彼女にとっても響きの良い東京文化会館小ホールでのソロ・ライブ(曲目は当日に発表される)は貴重な機会となるだろう。まさに聴き逃せないコンサート。

そのほか、Music Festival TOKYOには、ヴァイオリンの石亀協子やホルンの濱地宗ら東京音楽コンクール入賞者が多数参加し、映画に使われた名曲を奏でる「まちなかコンサート Vol.1 シネマ・クラシック」やピアノの白石光隆とトランペットの高見信行による「まちなかコンサート Vol.2 3歳からの楽しいクラシック」など、家族で楽しめるプログラムも用意されている。

また、国立西洋美術館や江戸東京たてもの園など都内の様々な文化施設に、ソプラノの澤江衣里、ヴィオラの田原綾子、フルートの上野由恵ら東京音楽コンクール入賞者を中心とする演奏家たちが出演する「まちなかコンサート 芸術の秋、音楽さんぽ」にも出掛けてみたい。

0歳から大人まで楽しめる「ミュージック・ワークショップ・フェスタ」は、ポルトガルの音楽施設「カーザ・ダ・ムジカ」と連携して立ち上げられた東京文化会館独自のエデュケーション・プログラム。最終日には、カーザ・ダ・ムジカと東京文化会館のワークショップ・リーダーによる参加型の「ワークショップ・コンサート」も開催される。



©青柳聡

第13回東京音楽コンクール 優勝者コンサート

大ホール

平成28年1月11日(月・祝) 14:00

出演 ソリスト:第13回東京音楽コンクール 弦楽・木管・声楽部門優勝者
*優勝者が出ない部門についてはソリスト出演はありません。

指揮:梅田俊明
管弦楽:東京フィルハーモニー交響楽団
司会:朝岡聡



梅田俊明 ©三浦興一

朝岡聡

料金 指定2,000円 ※各種割引あり

舞台芸術創造事業

小ホール

小ホール=リサイタル・ホールの空間を活かした実験的、前衛的な舞台芸術作品を創造・発信します。

ON-MYAKU 2016 —see/do/be tone—

平成28年1月30日(土) 19:00、31日(日) 15:00

構成・振付・ダンス 白井剛
音楽構成・ピアノ 中川賢一
映像演出 堀井哲史(ライゾマティクス)

照明 吉本有輝子(真昼)
舞台監督 大久保歩(クワット)



白井剛

中川賢一 ©Shuhei NEZU

堀井哲史

料金 S席4,500円 A席3,500円 ※各種割引あり(9月12日(土)発売[友の会会員先行発売9月5日(土)])

ハムレット たいらじょう×宮田大「Hamlet」

平成28年2月27日(土) 15:00

原作 シェイクスピア
脚本・演出・美術・人形操演 たいらじょう
音楽構成・チェロ 宮田大

曲目 J.S.バッハ:無伴奏チェロ組曲より
コダーイ:無伴奏チェロソナタより
他、様々な作曲家の作品から選曲



たいらじょう

宮田大 ©Shunji Kamemura

料金 S席5,800円 A席3,800円 B席2,000円 ※各種割引あり(9月12日(土)発売[友の会会員先行発売9月5日(土)])

東京文化会館オペラBOX「泣いた赤おに」(東京文化会館版)

小ホール

9月6日(日) 15:00 予定枚数終了

台本・作曲 松井和彦
演出 久恒秀典
指揮 諸遊耕史
出演 赤おに:宮里直樹
*第10回東京音楽コンクール声楽部門第2位(最高位)及び聴衆賞
青おに:岡 昭宏 *第12回声楽部門第1位及び聴衆賞
木こり:龍 進一郎 *第5回声楽部門入選
その娘:小田切一恵 *第2回声楽部門入選
百姓:黄木 透
その女房:八木寿子 *第9回声楽部門第1位
ナレーター:高橋薫子
プレトーク:朝岡聡
演奏 ピアノ:服部容子
ヴァイオリン:小川響子 *第10回弦楽部門第1位及び聴衆賞
クラリネット:西内智洋
打楽器:堀 欣美、山澤洋之、古川玄一郎
スタッフ 美術:黒沢みち 舞台監督:田中義浩
衣裳:増田恵美 演出助手・演技指導:伊奈山明子
照明:稲葉直人 合唱指導:田中美佳



松井和彦

久恒秀典

諸遊耕史

宮里直樹

岡 昭宏

龍 進一郎

小田切一恵

黄木 透

八木寿子

高橋薫子

朝岡聡

服部容子

小川響子

西内智洋

堀 欣美

山澤洋之

古川玄一郎

料金 指定3,000円 ※各種割引あり

共催公演

文京シビックホール×東京文化会館オペラBOX「泣いた赤おに」(東京文化会館版)

文京シビックホール 小ホール

9月13日(日) 15:00

ミュージック・エデュケーション・プログラム Workshop Workshop! ~国際連携企画~ MPT

ポルトガルの音楽施設「カーザ・ダムジカ」と連携し、様々なワークショップを開催する他、ワークショップ・リーダーを育成します。

ミュージック・ワークショップ・フェスタ

東京文化会館 東京芸術劇場

1 コオロギの大冒険

日付 10月22日(木)
会場 東京芸術劇場 リハーサルルームL
時間・対象 10:30 6~18ヶ月
12:00 19~35ヶ月



コオロギの大冒険 ©青柳 聡

日付 10月23日(金)
会場 東京文化会館 小ホール
時間・対象 11:00 6~18ヶ月
14:00 3~4歳

2 とびだせ!おんがくたんけん隊

日付 10月23日(金)
会場 東京文化会館 リハーサル室B
時間・対象 10:30 19~35ヶ月
12:00 3~4歳



とびだせ!おんがくたんけん隊 ©Mino Inoue

3 あけてみよう!海のふしぎな宝箱

日付 10月23日(金)
会場 東京芸術劇場 シンフォニススペース
時間・対象 10:30 6~18ヶ月
12:30 19~35ヶ月



あけてみよう!海のふしぎな宝箱 ©Mino Inoue

4 シング&ビート

日付 10月23日(金)
会場 東京文化会館 大ホールホワイエ
時間・対象 11:00 小学生~大人



シング&ビート ©João Messias

5 カラダ・オト・ウタウ

日付 10月24日(土)
会場 東京文化会館 大ホールホワイエ
時間・対象 10:30 小学生~大人



カラダ・オト・ウタウ ©João Messias

東京文化会館ミュージック・ワークショップ

リハーサル室 A/B

1 とびだせ!おんがくたんけん隊

日付 12月5日(土)
時間・対象 10:30 3~4歳
12:00 5~6歳(未就学児)
14:00 19~35ヶ月

2 鳴り響け!にほんの音!

日付 平成28年1月24日(日)
時間・対象 10:30 3~4歳
12:00 5~6歳(未就学児)

3 リズミカル・キッチン

日付 平成28年1月24日(日)
時間・対象 15:00 小学生~大人

料金 参加料500円

ミュージック・エデュケーション・プログラム Talk & Lesson 玉木 優 トロンボーンワークショップ MPT

平成28年2月11日(木・祝)~13日(土) 10:00~20:00(予定)

東京芸術劇場シンフォニススペース (11・12日) 東京文化会館 小ホール (13日)

対象 トロンボーン奏者、学生 10名程度

料金 受講料30,000円(全3回、修了時の成果発表会出演有) 聴講料1,000円(1回) 2,500円(通し券) (12月1日(火)発売)
受講生募集期間 12月1日(火)~12月11日(金)

チケットはこちらから

- 東京文化会館チケットサービス/03-5685-0650 <http://www.t-bunka.jp/ticket/>
- 都響ガイド/03-3822-0727 <http://www.tmsr.or.jp/>
- チケットぴあ/0570-02-9999 <http://t.pia.jp/>
- イープラス/ <http://eplus.jp/t-bunka/>
- ローソンチケット/0570-000-407 <http://l-tike.com/>

※公演により取扱いのないプレイガイドもございます。
※都合により内容が変更となる場合がございますのでご了承ください。
※未就学児の入場はご遠慮ください。
(一部のコンサート/ワークショップを除く)
※料金は税込です。

■お問合せ
東京文化会館事業企画課 03-3828-2111(代表)
www.t-bunka.jp Twitter@tbunka_official

ギエムの歴史的背景
Sylvie Guillem

文/三浦雅士(評論家)



二〇一〇年、六二歳で亡くなったトニー・ジャットは日本にもファンの多い歴史家だが、夫人のジェニファー・ホームマンズはダンサー出身の批評家で『アポロの天使たち』という分厚いバレエ史を刊行している。ジャットはロンドンのユダヤ人でケンブリッジ大学に進み、パリのエコール・ノルマルに留学して、最終的にニューヨーク大学で教鞭を取っているものの教養はいかにもヨーロッパ風。だが、夫人は違う。まさにアメリカ人でそのバレエ史もアメリカ中心主義。とはいえ夫君の影響というべきか、十九世紀まではよく描かれていて、とくにブルノンヴィルが登場し、パリでガエタン・ヴェストリスの子、オーギュストの指導を受けるくだりがある。

十八世紀までのバレエは基本的に宮廷バレエの延長で、優雅な身ごなしを伝授するもの。それを表現芸術にまで高めようとしたのがノヴェールで、その先駆となったのがマリ・サレ、カマルゴといったバレリーナたちだった。問題はこれら演技するバレリーナたちが高度にアスレティックな技量を持っていたということで、これはこれまで看過されてきたようだ。フランス革命が勃発し、従来の優雅な身ごなしの価値が急落するなかで注目されたのはアクロバティックな技術。ブルノンヴィルの父はノヴェールの弟子で、演劇的バレエを志してはいたものの基本的には優雅な身ごなし重視派。同じことはヴェストリス父子にも言えて、ガエタンは優雅派、オーギュストは技術派。ブルノンヴィルの父は子に優雅な身ごなしを習得させようとしてパリに留学させたが、子のほうはアクロバティックな技術に目を奪われて、オーギュストのもとに学び、一時、パリ・オペラ座に職を得る。関心は卓越したテクニックにあったわけだ。

当時はロマンティック・バレエ全盛で、焦点はマリ・タリオニだが、ブルノンヴィルが目にしたのは彼女の鋼鉄のような筋肉のみ。妖精のように軽やかな飛翔もその賜物なのだ。実際、注目されるバレリーナはみな男性ダンサーのように練習していた。古風で優雅なロマンティック・バレエの代名詞ブルノンヴィルがじつはアスレティック派だったと言われると驚くが、しかし考えてみれば当然で、ここであらためてシルヴィ・ギエムがいかに正統的なバレリーナであったか思い知らされた。

シルヴィ・ギエムは二十世紀を代表するバレリーナである。彼女の身体能力は空前絶後、まるでサイボーグを見ているような気がしたが、しかしギエムはバレエ史において決して異例ではなかったわけだ。サレもカマルゴもタリオニもほんとうはギエムのようなものだったのである。『アポロの天使たち』を読めばそういうことになる。むしろアメリカ中心主義のホームマンズがギエムに言及しているわけではない。演劇的バレエの主流を取り逃がしているのだが、それはここでの話題ではない。

パリ・オペラ座バレエ、ロイヤル・バレエ、世界バレエ・フェスティバル、そして彼女の名を冠したツアーと、東京文化会館に



シルヴィ・ギエム 1986年5月16日 パリオペラ座バレエ団 ロメオとジュリエット公演 東京文化会館 写真/木之下 晃

おけるギエムの名舞台を挙げていけば切りがない。キトリを演じたときなど、こんな神々しいキトリがあっただけかと思っただけだが、その美しさ、完璧さにはただ息を呑むほかなかった。だが、名舞台として脳裏を去らないのはむしろ『ロミオとジュリエット』、『田園の出来事』、『三人姉妹』など、演技するダンサーのほうであって、とりわけバルコニーのシーンでジュリエットがロミオの手を自分の胸に当てて、ほらこんなにドキドキしているのと言う場面の、あの、ほとんど少女の茶目っ気を感じさせる初々しさは忘れがたい。同じ場面を見るつど、ギエムの姿が重なって見えてきてしまうのである。

振り返って、その超絶技巧よりはるかに演技の細部が記憶に残っていることに驚く。繊細な演技を支えているのは鋼鉄のような筋肉にほかならないわけだが、記憶はおそらく繊細な香りのほうを愛してしまうのである。

大ホール

Table of performances in the Main Hall (大ホール). Includes dates like 2金, 3土, 4日, 5月, 10土, 11日, 12月祝, 14水 and various concert titles such as '東京二期会オペラ劇場 歌劇『ダナエの愛』' and 'ブルガリア国立歌劇場 歌劇『トウランドット』'.

Table of performances in the Small Hall (小ホール). Includes dates like 15木, 17土, 18日, 24土, 25日, 27火, 31土 and various concert titles such as '東京都交響楽団 第795回定期演奏会' and 'Music Program TOKYO / Music Festival TOKYO'.

小ホール

Table of performances in the Small Hall (小ホール). Includes dates like 1木, 2金, 3土, 5月, 6火, 7水, 8木, 9金, 10土, 11日, 12月祝, 13火, 14水 and various concert titles such as 'ヤナーチェク弦楽四重奏団 アフタヌーンコンサート' and '東京文化会館 モーニングコンサート Vol.89'.

Table of performances in the Small Hall (小ホール). Includes dates like 15木, 16金, 22木, 26月, 27火, 28水, 29木, 30金, 31土 and various concert titles such as '花房晴美 室内楽シリーズ パリ・音楽のアトリエ 第10集記念公演' and '東京ハルモニア室内オーケストラ 第51回定期演奏会'.

休館日: 19日(月)・20日(火)

休館日: 19日(月)・20日(火)

大ホール

Table of performances in the main hall (大ホール). Includes dates from 1/3 to 18/18, titles like 'Spain National Ballet 2015 Japan Tour', and details on performers, times, and ticket prices.

休館日: 9日(月)・10日(火)

●掲載情報は2015年8月17日現在のものです。●主催者等の都合により、公演内容が変更になる場合があります。また、公演によっては全席種のチケットをご用意できない場合もあります。詳しくは各主催者にお問合せください。

アルト(A)/アコーディオン(Ac)/バリトン(Br)/バス(Bs)/バスバロン(Bs-Br)/バンドネオン(Bn)/カウンターテナー(CT)/コントラバス(Cb)/クラリネット(Cl)/チェンバロ(Cem)/ドラムス(Ds)/ユーフォニアム(Eu)/ファゴット(Fg)/フルート(Fl)/フォルテピアノ(Fp)/ギター(Gt)/ヴィオラ・ダ・ガンバ(Gb)/ハープ(Hp)/ホルン(Hr)/キーボード(Key)/メゾソプラノ(Ms)/マリンバ(Mar)/オーボエ(Obo)/オルガン(Og)/ピアノ(Pf)/パーカッション(Pc)/ソプラノ(S)/サククス(Sax)/テノール(T)/トロンボーン(Tb)/ティンパニ(Tim)/トランペット(Tp)/チューバ(Tu)/ヴィオラ(Va)/ヴィブラフォン(Vib)/チェロ(Vc)/ヴァイオリン(Vn)/ヴォーカル(Vo)/ソプラノサククス(S-Sax)/アルトサククス(A-Sax)/テナーサククス(T-Sax)/バリトンサククス(Br-Sax)/リコーダー(Rec)/シンセサイザー(Syn)/コーラス(Cho)

Table of performances in the small hall (小ホール). Includes dates from 21/23 to 30/30, titles like 'Shuttleworth Ballet 2015 Japan Tour', and details on performers, times, and ticket prices.

Table of performances in the small hall (小ホール). Includes dates from 21/23 to 30/30, titles like 'Shuttleworth Ballet 2015 Japan Tour', and details on performers, times, and ticket prices.

東京文化会館チケットサービスのご案内
当館及び他会場で開催される、オペラ、バレエ、クラシックコンサート等のチケットを多数取り揃えております。窓口、お電話の他、インターネットでもご購入いただけます。ぜひご利用ください。
◆営業時間 10:00~19:00
◆TEL 03-5685-0650
◆HP http://www.t-bunka.jp/
◆休業日 9月/1日(火) 11月/9日(月)・10日(火) 10月/19日(月)・20日(火) 12月/未定

小ホール

Table of performances in the small hall (小ホール). Includes dates from 1/1 to 17/17, titles like 'Tajiri and Watanabe Piano Recital', and details on performers, times, and ticket prices.

休館日: 9日(月)・10日(火)

Table of performances in the small hall (小ホール). Includes dates from 18/18 to 29/29, titles like 'Kitahara Ritsuko Piano Recital', and details on performers, times, and ticket prices.

大ホール

Table of concert listings for the main hall (大ホール), including dates, times, and details for various performances such as 'マリンスキー・バレエ『ロミオとジュリエット』' and '東京文化会館バックステージツアー'.

休館日: 7日(月)・14日(月)・29日(火)・30日(水)

小ホール

Table of concert listings for the small hall (小ホール), including dates, times, and details for various performances such as '寺嶋隆也 ピアノリサイタル' and '東京シンフォニエッタ 第38回定期演奏会'.

休館日: 7日(月)・14日(月)・28~30日(月~水)

Table of concert listings for the small hall (小ホール), including dates, times, and details for various performances such as 'シルヴィ・ギエム『ライフ・イン・プログレス』' and '東京シティアカデミー管弦楽団 第九特別演奏会'.

休館日: 7日(月)・14日(月)・28~30日(月~水)

Table of concert listings for the small hall (小ホール), including dates, times, and details for various performances such as 'アンサンブル・ロココ 第29回 クリスマス・バロック・コンサート' and '第23回 和波たかよし(Vn) クリスマスパッサリシリーズ'.

休館日: 7日(月)・14日(月)・28~30日(月~水)

公演情報 (12月)

音楽資料室では、図書や楽譜、CD・LP・映像資料のほか、開館から現在までに東京文化会館で行われた公演のプログラムを所蔵しています。東京文化会館の歴史が詰まったプログラムのページをめくると、まるで当時にタイムスリップしたかのような気持ちになります。今回ご紹介するのは、1961年4月17日から5月6日に行われた東京世界音楽祭のものです。プログラムから、開館当初の雰囲気を感じてみませんか。



東京世界音楽祭は、東京文化会館の落成を記念し開催された公演です。大ホールでの公演と並行して、当館内国際会議場(現・小ホール)で「東西両洋音楽交流会議」も行われ、国内外の著名な音楽学者や作曲家、評論家らが参加しました。今回は3点のプログラムをご紹介しますが、他にもアイザック・スターン、ジュリアード弦楽四重奏団、日本フィルハーモニー交響楽団、伝統的な音楽・舞踊などの公演が行われました。これらのプログラムもすべて所蔵しております。ご来館いただきまして、実際に手に取ってご覧ください。

GAGAKU

雅楽(管弦)
1961年4月17日 小ホール

音楽祭初日に行われた開会式において、雅楽が演奏されました。プログラムには演奏曲目の平調音取(ひょうじょうねとり)、催馬楽 伊勢の海、越天楽について英語・日本語の解説があります。英語の解説は初心者にもわかりやすいよう、より詳しく説明されています。

The Royal Ballet

英国ロイヤル・バレエ団
1961年4月17日・18日 大ホール

音楽祭初日と二日目の夜を飾ったのは初来日の英国ロイヤル・バレエ団。東京文化会館大ホールで行われた記念すべき初のバレエ公演でした。4月17日は、このバレエ団の養成学校で学び、世界的プリマとして人気を博す存在となっていたバレリーナ、マーゴ・フォンティーンが主役を務めた「ジゼル」が上演されました。

New York Philharmonic

ニューヨーク・フィルハーモニック
1961年4月26日、5月5日・6日 大ホール

レナード・バーンスタインが指揮とピアノソノを兼務したラヴェルのピアノ協奏曲等、3つの異なるプログラムを演奏し注目を集めました。5月5日の演奏会では、当時ニューヨーク・フィルの副指揮者になったばかりの小澤征爾がバーンスタインから舞台上に呼び込まれ、黛敏郎の作品を指揮するというサブライズもありました。(映像資料所蔵あり)

これらの公演プログラムはすべて音楽資料室で閲覧することができます。また、公演プログラムの検索は音楽資料室のほか、インターネットから「東京文化会館アーカイブ <http://i.t.bunka.jp/>」を通じて調べいただけます。ご不明な点がございましたら、お気軽におたずねください。皆さまのご利用をお待ちしています。



東京文化会館アーカイブ



プログラムの室内閲覧

音楽資料室ご案内

東京文化会館4Fには、音楽資料室があります。楽譜、CD・LP、映像、図書など、クラシック音楽を中心とした資料の閲覧・視聴ができます。初回は、お名前、住所を確認できるものをお持ちください。電話での資料に関するご質問にもお答えしております。(電話受付時間:祝日を除く開室日の火~土曜 9~17時) インターネットでも所蔵資料を検索することができます。(http://t.bunka.opac.jp/)

TEL ▶ 03-3828-2111(代表)
URL ▶ <http://www.t-bunka.jp/library/>
*コピーサービスを除き、料金は必要ありません。

開室時間

火曜~土曜 13時~20時 (コピー受付 18時30分まで)
日曜・祝日 13時~17時 (コピー受付 16時まで)
*開室時間は変更になる可能性があります。ホームページや電話でご確認ください。

休業日

・毎週月曜
・保守日等(9月1-2日、10月20-21・27日、11月10-11日、12月22日)
・年末年始(12月28日-1月4日)
詳しくは、ホームページのカレンダーや電話等でご確認ください。

都響 ニュース vol.37

東京文化会館から上質の音楽を発信!

東京都交響楽団

音楽監督:大野和士 終身名誉指揮者:小泉和裕
桂冠指揮者:エリアフ・インバル 首席客演指揮者:ヤクブ・フルシヤ

「芸術の秋」到来! 都響の注目公演を是非この機会に。

少しずつ秋の気配が感じられるようになりました。音脈読者のみなさま、いかがお過ごしでしょうか? 10月以降の後期シーズンも充実したプログラムを取り揃えました。世界最高の呼び声高いスウェーデン放送合唱団、ドレスデン・フィル首席指揮者のミハエル・ザンデルリン

ク、そして終身名誉指揮者の小泉和裕、桂冠指揮者のエリアフ・インバルといった豪華な顔触れによる数々の名曲を都響サウンドでお届けいたします。この秋はゆっくりと都響の音楽に浸ってみませんか? みなさまのご来場を心よりお待ちしております。

2015年度定期演奏会 Aシリーズ 各回19時開演 東京文化会館

第795回 | 好評発売中

2015年10月15日(木)

指揮/ペーター・ダイクストラ (スウェーデン放送合唱団首席指揮者)
ソプラノ/クリスティーナ・ハンソン、アルト/クリスティーナ・ハマーストレム
テノール/コニー・ティマンダー、バス/ヨアン・シンクラー
合唱/スウェーデン放送合唱団
リゲティ:ルクス・エテルナ(1966)(無伴奏混声合唱)
シェーンベルク:地には平和を op.13(混声合唱と管弦楽)
モーツァルト:レクイエム 二短調 K.626(ジュスマイヤー版)



ペーター・ダイクストラ © Astrid Ackermann

第798回 | 好評発売中

2015年12月10日(木)

指揮/ミハエル・ザンデルリンク
チェロ/アレクセイ・スタドレル
ショスタコーヴィチ:チェロ協奏曲第1番変ホ長調 op.107
チャイコフスキー:交響曲第1番短調 op.13《冬の日の幻想》



ミハエル・ザンデルリンク © Marco Borggreve | アレクセイ・スタドレル © Guido Werner

第800回 | 一回券:9/25(金)発売

2016年1月12日(火)

指揮/小泉和裕
ヴァイオリン/イザベル・ファウスト
メンデルスゾーン:ヴァイオリン協奏曲ホ長調 op.64
R.シュトラウス:家庭交響曲 op.53

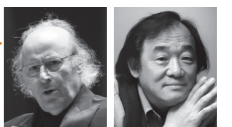


小泉和裕 © 堀田方丸 | イザベル・ファウスト © Detlev Schneider

第803回 | 一回券:9/25(金)発売

2016年3月29日(火)

指揮/エリアフ・インバル
ピアノ/白 建宇(クンウー・バイク)
モーツァルト:ピアノ協奏曲第27番変ロ長調 K.595
ショスタコーヴィチ:交響曲第15番イ長調 op.141



エリアフ・インバル © 堀田方丸 | クンウー・バイク © Woo Ryoung Chae

TICKET 一定期演奏会 Aシリーズ一回券料金一	S席	A席	B席	C席	Ex席
第795回・第803回	7,500	6,500	5,500	4,500	2,800
第798回・第800回	6,500	5,500	4,500	3,500	1,800

TICKET 一定期演奏会 Aシリーズ会員券料金一	S席	A席	B席	C席	Ex席
後期シーズン会員(10月以降全4公演)	22,400	19,200	16,000	12,800	8,200

都響スペシャル「第九」

2015年12月25日(金) 19:00 開演 東京文化会館 | 8/28(金)発売

指揮/エリアフ・インバル
ソプラノ/安藤赴美子、アルト/中島郁子、テノール/大槻孝志、バス/甲斐栄次郎、合唱/二期会合唱団
ベートーヴェン:交響曲第9番 二短調 op.125(合唱付)

S:8,000円 A:7,000円 B:6,000円 C:5,000円 Ex:2,200円



エリアフ・インバル © 堀田方丸

◎シルバーエイジ(65歳以上)、ジュニア(18歳未満)、学生割引等あり。詳しくはお問合せください。

ご予約と
お問合せ

都響ガイド 03-3822-0727 <http://www.tmso.or.jp> (ホームページからも予約できます)

〒110-0007 東京都台東区上野公園5-45 東京文化会館1階(月~金 10時~18時/土日祝休み ※主催公演開催日等は営業時間に変更となります。)

東京文化会館友の会のご案内

“音楽の殿堂”東京文化会館を応援して下さる舞台芸術ファンのための友の会『Club Wa-Wa(わあーわ)』。Wa-Waとは、ご支援くださる皆様の“輪”と“和”を意味しています。

東京文化会館は、昭和36(1961)年の開館以来、日本における舞台芸術の中心地として、半世紀にわたる歴史を刻んでまいりました。伝統をふまえ、未来へ向けて歩む会館を、『Club Wa-Wa』の皆様を支えていただき、さらなる“輪”を広げていただきたいと願っております。多くの皆様のご入会を心よりお待ちしております。



【会員プラン】

①ベーシックプラン/年会費 2,160円
メルマガ、ホームページから情報をお届けするプラン

②クラシックプラン/年会費 2,700円
毎月1回ご郵送する会報誌から情報をお届けするプラン

【特典】(ベーシックプラン、クラシックプラン共通)

- ①当館指定公演のチケット割引
- ②先行発売
- ③招待
- ④館内レストラン・ショップ割引
- ⑤ヤマハ銀座店5%割引 (一部対象外)
- ⑥「音脈」郵送
- ⑦東京都歴史文化財団が運営する文化施設の入館料等の割引
- ⑧アトレ上野の対象店舗の各種サービス
- ⑨エキュート上野の対象店舗の各種サービス

お問合せ 東京文化会館友の会事務局 03-3828-1696 (平日9:00~17:00 土日祝休み) <http://www.t-bunka.jp/wawa/>

vol.60 音脈 表紙について

1961年の開館以来、東京文化会館ではオペラ、バレエ、クラシックコンサートなど、世界中の著名なアーティストによる名演の数々が繰り広げられてきました。5階まである大ホールは赤を基調に、青、緑、黄の椅子が散りばめられています。その配色は、舞台から客席を見た際に、空席が目立たなくなる色彩効果があると言われています。エントランスロビーから、2階のレストラン、4階の音楽資料室へと続く赤色の螺旋階段は開館当時のものです。まるで星空のように館内に輝く照明を見つめながら、レストランでのお食事をぜひお楽しみ下さい。

レストラン フォレスティエ

美食の秋にお届けする芳醇なハーモニー
フォレスティエでは皆様のお越しをお待ちしております。



コンチェルト
お肉
(牛ロース肉のステーキ)
のセットメニュー
3,100円
(税込)

シンフォニー
お魚
(イズミ鯛のボワレ)
のセットメニュー
3,100円
(税込)

お問合せ 営業時間/11:00~19:00 TEL:03-3821-9151
※ホール公演日により営業時間が異なります。詳細はお問い合わせ下さい。

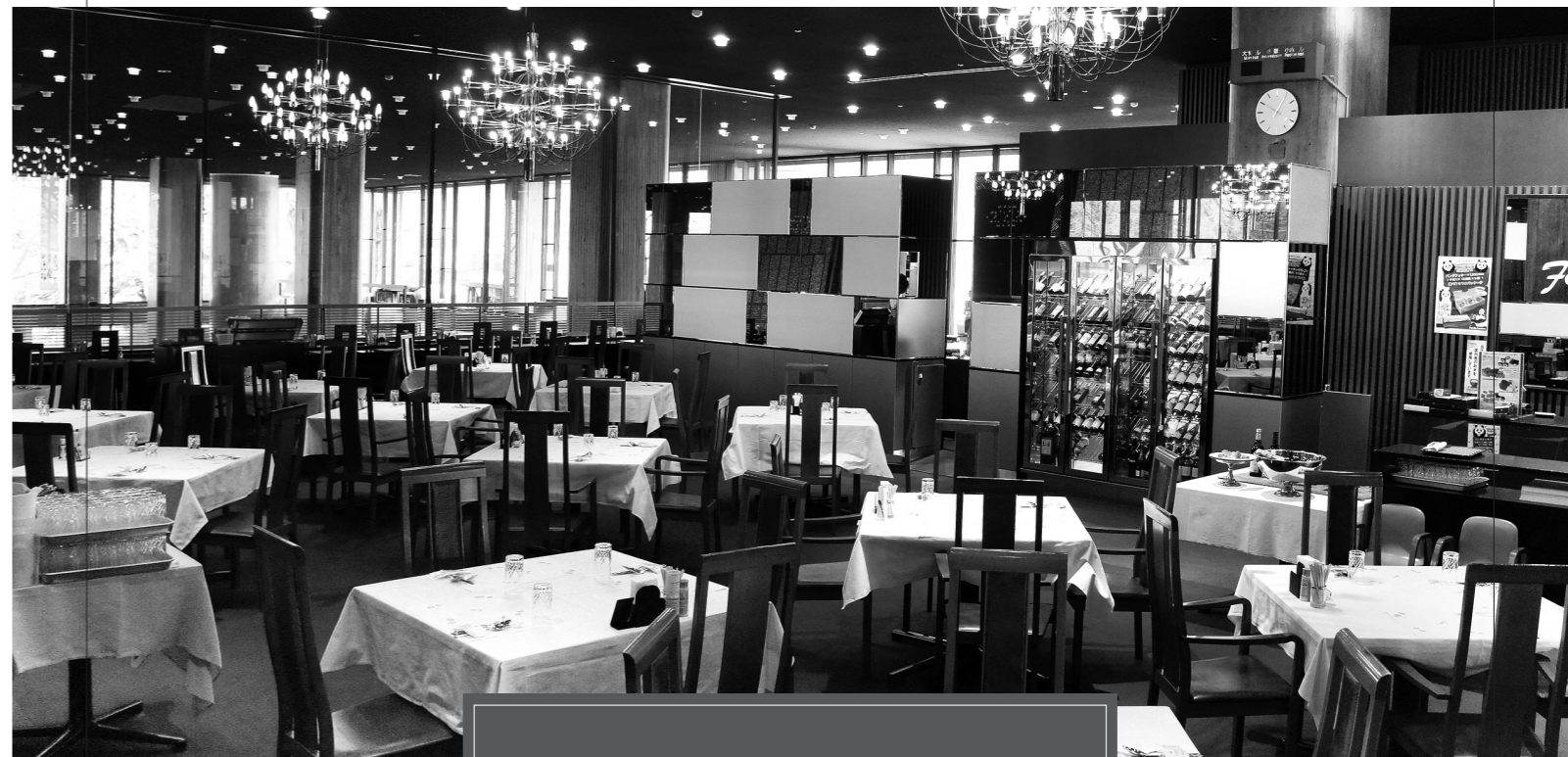
東京文化会館ギフトショップ

ギフトショップでは、音楽やバレエにちなんだ劇場ならではのグッズを店いっばいに揃えて、皆様のお越しをお待ちしております。
ギフトラッピングも速慮なくお申し付けください。



鍵盤織りボン ラウンドバッグ 8,424円(税込)

お問合せ TEL:03-3828-2223



Luxury Modern

ラグジュアリー・モダン

劇場の余韻に浸る空間



TEL 03-3821-9151

(東京文化会館 2階)

<http://www.seiyoken.co.jp>

日本三名泉の
ひとつ
有馬で憩う



心地よい奏と
心温まる
ひととき。

有馬グランドホテル

<http://www.arima-gh.jp/>

神戸中心部から好アクセス!

新神戸駅から車、電車で約30分

tel. 078-903-5489 兵庫県神戸市北区有馬町 1304-1

Special concert

日本最古の温泉地に、クラシック界期待のアーティスト!



ピアニスト
富永 愛子 Aiko Tominaga

“クリスマス”クラシックミニコンサート

12/24(木)・25(金) ご宿泊のお客様 無料

◆Time 1部 20:30~ / 2部 21:15~
◆Place 有馬グランドホテル1階ラウンジ「ルシェッロ」

Profile
2008年 第6回東京音楽コンクール ピアノ部門第1位

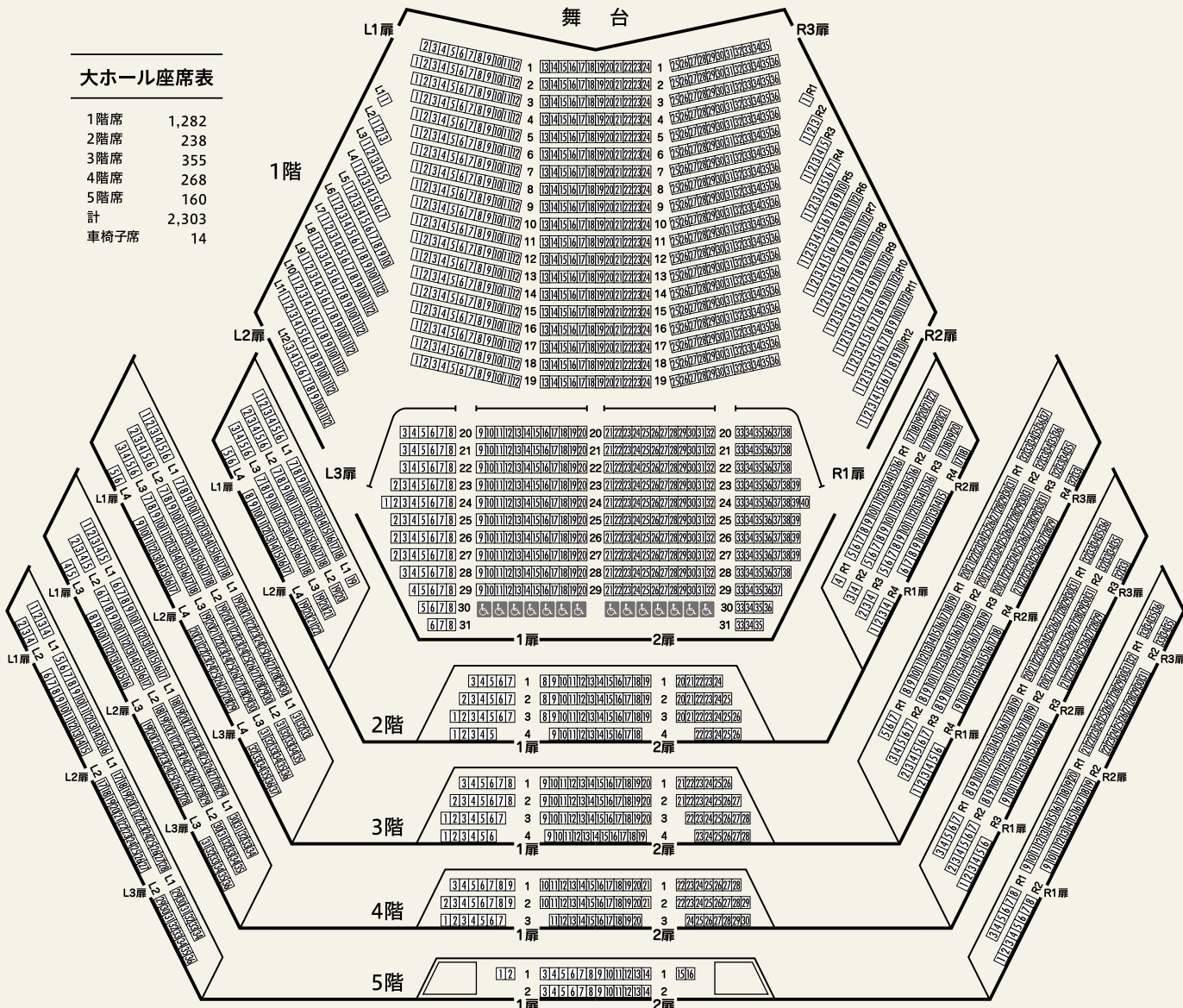
2016年度 クラシックミニコンサートは、3月以降開催予定です。

※詳しくはお問い合わせください。



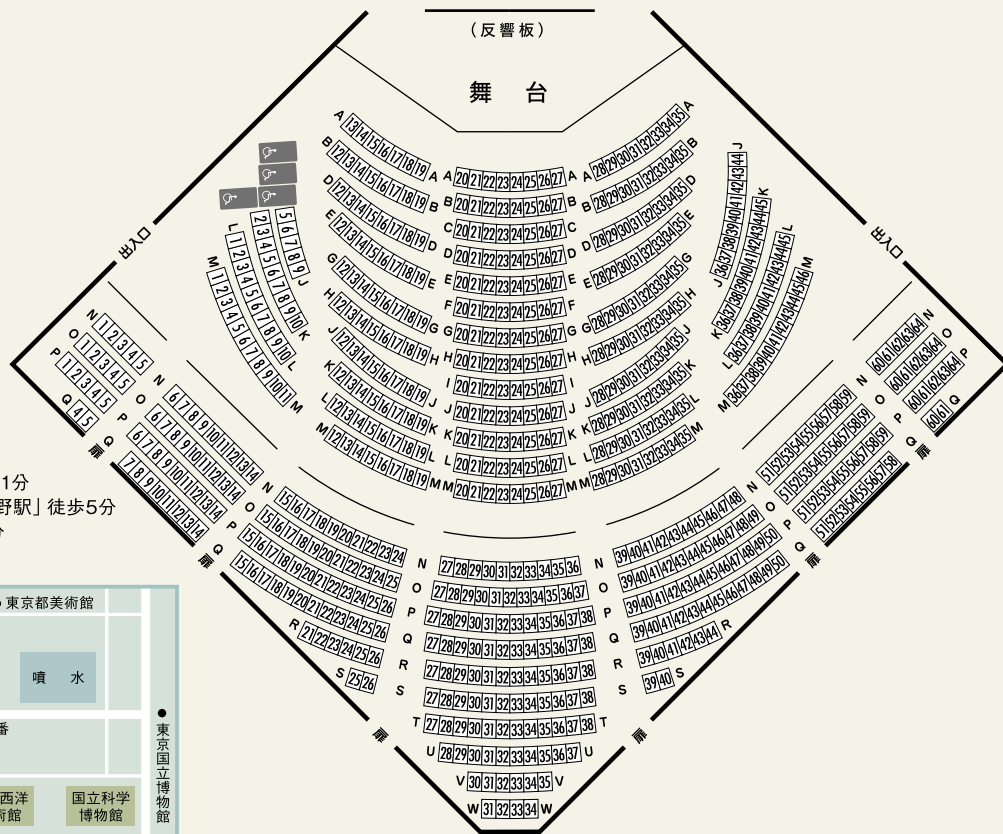
大ホール座席表

1階席	1,282
2階席	238
3階席	355
4階席	268
5階席	160
計	2,303
車椅子席	14



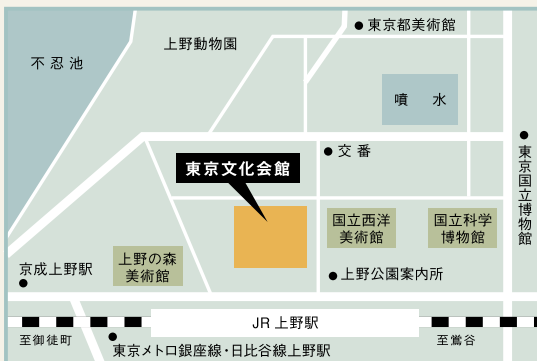
小ホール座席表

下段席	338
上段席	311
計	649
車椅子席	4



Access

- JR線 「上野駅」公園口 徒歩1分
 - 東京メトロ 銀座線・日比谷線「上野駅」徒歩5分
 - 京成線 「京成上野駅」徒歩7分
- ※当館には駐車場はございません。



※ホールにはエレベーター、エスカレーターはございません。
あらかじめご了承ください。